

第2章

学校における防災教育

I 学校における防災教育の推進

学校での未曾有の悲劇を生じた東日本大震災発生後も、毎年のように大規模な自然災害が日本列島を襲っている。石巻市立大川小学校の事例も含め、教訓は次の時代の防災教育に活かされなければならない。一方、地震・津波が発生したのが、学校管理下であったため、多くの児童生徒が、教職員の適切な指示・誘導のおかげで助かった例も報告されている。この点で学校での防災管理はそれなりの効果を上げたことも考えられる。しかし、児童生徒は多くの時間を学校外で過ごしている。災害発生時に教員や大人がいなかった場合、自らの判断で自分を守ることができたか、防災教育の観点では疑問も残る。確かに、東日本大震災で発生した津波からの避難において、それまでの防災教育によって培われた釜石市の中学生の正しい知識と各自の判断が、地域の人々の避難を促し、結果として多くの人命を救うことになったといわれている。この教訓を活かし児童生徒の命を守るために、学校においては、県及び地域の特徴に応じた計画的・継続的な防災教育の一層の推進を図っていく必要がある。

1 学校における防災教育の目的

文部科学省は、学校防災のための参考資料「『生きる力』を育む防災教育の展開」(H25年3月)において、防災教育のねらいを次のようにしている。

- 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる。(知識、思考・判断)
 - 地震、台風が発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができる。(危険予測、主体的な行動)
 - 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。(社会貢献、支援者の基盤)
- このように、学校における防災教育は、「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育の一環として、児童生徒が地震等の災害に直面したとき、災害に対する正しい知識・技能をもとに、的確に状況を判断し、自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できるよう「防災対応能力」を育成することをねらいとしている。

2 長野県の学校における防災教育のねらい

防災教育は、様々な危険から児童生徒等の安全を確保するために行われる安全教育の一部をなすものである。「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」改訂版（文部科学省，2019）に示された安全教育の目標は、次のような3つに示されている。

- 様々な自然災害や事件・事故等の危険性，安全で安心な社会づくりの意義を理解し，安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。（知識・技能）
- 自らの安全の状況を適切に評価するとともに，必要な情報を収集し，安全な生活を実現するために何が必要かを考え，適切に意思決定し，行動するために必要な力を身に付けていること。（思考力・判断力・表現力等）
- 安全に関する様々な課題に関心をもち，主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり，安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。（学びに向かう力・人間性等）

各学校においては，平成29年に改訂された学習指導要領の趣旨を踏まえ，カリキュラム・マネジメントも意図した防災教育の展開が必要である。

本副読本では，児童生徒及び思想・支援する教職員に対して，具体的に次のようなことを意識してもらいたいと願っている。

1. 身近な地域の過去の災害を知ることが将来の備えにつながる。
2. 移動の著しい時代，自分や次世代はどこにいるかわからない。確かに長野県は海はないが，津波など他地域の自然災害の理解にも努める。
3. 防災（災害安全）は安全・危機管理の基本（生活安全・交通安全も含む）となる。つまり，自然災害だけでなく，事件，事故・災害からも自分達を守ることを考える。
4. 新型コロナウイルス感染症なども含め，想定外の自然災害などが発生しうる先行き不透明な時代に「生きる力（生き抜く力）」を培う。
5. 学校と地域との新たなつながりを考える。確かに，これまで学校・教職員は子供の安全を守るために甚大なエネルギーを注いできたが，限界があり，保護者・地域との連携が不可欠である。
6. 環境（自然・社会）・科学技術の二面性を知り，畏敬・感謝の念を培う。自然災害を防ぐために自然を理解することは重要ではあるが，自然の恩恵にも気づくことが不可欠である。
7. 自分が社会にどう貢献できるかを考える機会とする。教職員はじめ大人は子供を守ってくれるが，逆に子供達は地域や被災地に何ができるかを考えることも大切である。

3 校種別の防災教育の重点

発達の段階ごとに、必要な知識を身に付け、主体的に行動する態度や支援者としての視点を育成するため、具体的な指導内容に関して、次の方向が考えられる。

(1) 小学校

低学年から高学年まで、発達の段階に応じたねらいや目標を挙げ、様々な学習と連動させて取り組む。学校や保護者が連動して児童の安全管理を図ることは不可欠ではあるが、常に大人が目を離さないようにすることは限界もあり、子供の適切な判断力を培うことも考えたい。

低学年では、教職員や保護者など近くの大人の指示に従うなど適切な行動がとれるようにし、危険についても考えることができるようにする。中学年では、災害の時に起こる危険について知り、自ら安全な行動ができるようにする。高学年では、日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく他の人々の安全にも気配りができるようにする。

(2) 中学校

小学校での学習を深め、多くの教科や総合的な学習の時間において災害に関する基礎・基本的な知識や技能を習得し、特別活動や学校行事の中で防災学習と結び付けた活動を行う。例えば、地域の過去の災害や他の地域の災害例から、危険を理解したり、応急処置の技能を身に付けたり、防災への日常の備えや的確な判断のもと主体的に避難行動などができるようにする。また、学校、地域の防災や災害時の助け合い、ボランティア活動の大切さについても理解を深め、進んで活動できるようにする。

(3) 高等学校

学校や教科の専門性に応じて、多様で実践的な防災教育の展開を行う。中学校までの学習を踏まえ、学校や地域の危険性、状況の変化等に気付き、学校内外の関係者と報告・連絡・相談などを行い、適切な解決方法がとれるようになる。また、自らの安全の確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献しようとする態度や応急処置の技能等を身に付け、地域の防災活動や災害時のボランティア活動にも積極的に参加できるようにする。さらに安全を守るために働いている人や防災と関連した職務

について理解できるようにする。

(4) 特別支援学校

児童生徒の特性，障がいの状態，発達段階，及び地域の状況に応じて，幼稚園，小学校，中学校または高等学校に準じた防災教育を行う。

ホームルームや総合的な学習の時間のほか，各教科や自立活動，作業学習等を活用して，災害の理解，安全確保行動や援助要請行動の定着，発災後の環境変化への適応などを目的に実践的な防災教育を展開する。防災教育を通じて自己理解，他者や地域とつながる力，思考力・判断力・表現力等の育成が可能であり，個別の教育支援計画や各教科・学年の目標と防災教育の重点を関連付けることで，児童生徒の育成を一体的かつ効果的に進められるよう工夫する。

特に安全確保行動については，視聴覚支援を含めた校内の環境整備を行うことと併せて，繰り返し練習して定着を図る必要がある。障がいが重度の児童生徒にあつては，訓練に参加して災害時のシミュレーションを重ねることで，災害時の個別の課題と対応を明確にする。また，災害をイメージすることで不安が高まる児童生徒もいることから，いたずらに不安を高めるのではなく，災害のリスクを理解した上で，災害から助かるための学習や訓練となるよう留意する。

特別支援学校は学区が広域であることから，授業時間外のスクールバスや公共交通機関での通学中，寄宿舎滞在時，帰宅困難時を想定した防災学習も必要となる。校内の関係職員・家庭・地域・関係機関等と協力して防災教育を進めることで，発災時の連携につなげていく。

II 防災教育の五つの柱

本県が目指す防災教育の実現に向けて、以下の五つの柱を設けた。

- 柱1 自然の“災害”を“恩恵”と共に学ぶ防災教育
- 柱2 環境教育、ESD、SDGsを踏まえた防災教育
- 柱3 防災教育を取り入れたカリキュラム・マネジメント
- 柱4 様々なケースを想定した防災訓練
- 柱5 身近な地域を知る学習（子供がつくる防災マップ）

柱1 自然の“災害”を“恩恵”と共に学ぶ防災教育

長野県の多様な、そして四季折々の美しい自然景観、それを基にした文化・伝統・産業

- 山・川・湖・渓谷などの自然公園・ジオパークなどの美しい景観
- 信州の気候や豊かな水がはぐくむ農産物
- 精密機器などの独自の工業製品
- 自然の地形や特色を生かしたスポーツ、レジャー

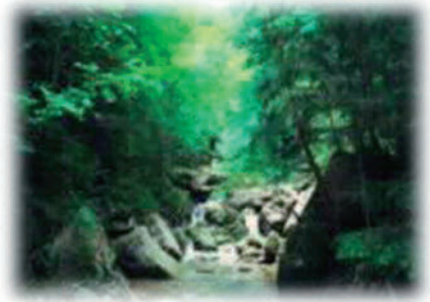
これらは、長野県のかげがえのない宝です。一方、自然のもつエネルギーが人間生活に大きな被害を与えることがあります。また、人間が自然に近づいたり、働きかけたりすることによって災害が拡大する可能性もあります。日常は長野県に多くの恵みを与えている自然ですが、一方でそのシステムやダイナミクスは災害につながることもあります。恩恵と災害の二面性を知ることが大切です。地域の自然を学ぶことは、地域を知り、地域に誇りや愛着を持つ取組にもつながっていきます。



山岳



池



渓谷



果樹栽培



スキー



ラフティング

写真提供：信州・長野県観光協会
長野県環境部自然保護課

長野県の自然について、自然景観から学びましょう

長野県の自然公園・・・国立公園（5地域），国定公園（4地域），県立自然公園（5地域）

国立公園（日本を代表する自然の風景地。国（環境大臣）が指定し，管理・保護する）

妙高戸隠連山国立公園，中部山岳国立公園，上信越高原国立公園，
秩父多摩甲斐国立公園，南アルプス国立公園

国定公園（国立公園に準じる自然の風景地。国（環境大臣）が指定し，長野県が管理・保護する）

八ヶ岳中信高原国定公園，天竜奥三河国定公園，妙義荒船佐久高原国定公園
中央アルプス国定公園

県立自然公園（長野県を代表する自然の風景地。長野県が指定し，管理・保護する）

御岳県立公園，三峰川水系県立公園，塩嶺王城県立公園，聖山高原県立公園，
天竜小渋水系県立公園



上信越高原国立公園 高峰高原・池の平湿原 写真提供：長野県環境部自然保護課

ジオパークは「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」から、「大地の公園」を意味しますが，最近では，ジオパークは訳さず，そのまま使われます。ジオパークのねらいとして，保全・保護，教育・啓発，ジオツーリズムを通して地域の持続可能な開発が期待されています。

長野県のジオパーク

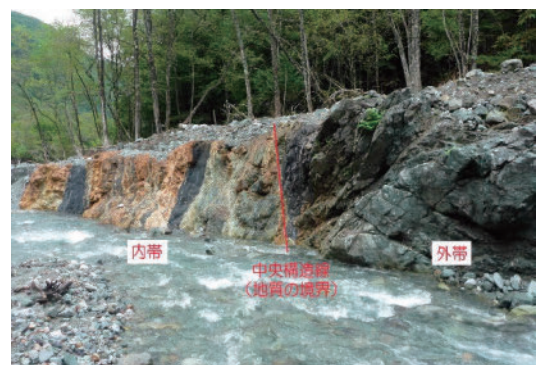
南アルプス ジオパーク

（中央構造線エリア）

南アルプスは，内陸の火山帯と海溝の間で生じた，地質現象がよく見られる場所です。安康露頭（下の写真）では，中央構造線が露出しているところを観察することができます。

苗場山麓ジオパーク

長野県栄村・新潟県津南町にまたがっています。栄村では2011年3月に大きな地震災害が発生しました。苗場山麓は，信濃川河川敷から苗場山山頂2,145mに至り，自然の二面性を感じるダイナミックな自然景観が広がります。



中央構造線安康露頭

写真提供：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会

柱2 環境教育, ESD, SDGs を踏まえた防災教育

(1) SDGs (持続可能な開発目標) と防災教育

SDGsって何?

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を中核とする「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

平成28(2016)年から令和12(2030)年までの国際社会共通の目標です。持続可能な開発目標(SDGs:17ゴール(下記),169ターゲット)を中心として、構成されています。それ以前の途上国の開発目標を定めた、ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals:MDGs)とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。(環境省ホームページより)



17のターゲットは具体的に、1. 貧困の撲滅 2. 飢餓撲滅, 食料安全保障 3. 健康・福祉 4. 万人への質の高い教育, 生涯学習 5. ジェンダー平等 6. 水・衛生の利用可能性 7. エネルギーへのアクセス 8. 包摂的で持続可能な経済成長, 雇用 9. 強靭なインフラ, 工業化・イノベーション 10. 国内と国家間の不平等の是正 11. 持続可能な都市 12. 持続可能な消費と生産 13. 気候変動への対処 14. 海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用 15. 陸域生態系, 森林管理, 砂漠化への対処, 生物多様性 16. 平和で包摂的な社会の促進 17. 実施手段の強化と持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化 です。上の中でも、特に環境と関連が深いことが赤字で示されています。

(2) ESD と防災教育

ESD (Education for Sustainable Development) って何？

ESDは「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、**ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育**です。

ESDの実施には、特に次の二つの観点が必要です。

- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

(1) ESDの目標

○全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること○持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること○環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと



(3) 学び方・教え方

○「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「**具体的な行動**」を促すという一連の流れの中に位置付けること○単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、**探究や実践を重視する参加型アプローチ**をとること○活動の場で学習者の**自発的な行動**を上手に引き出すこと

主体的・対話的で、深い学び

教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント

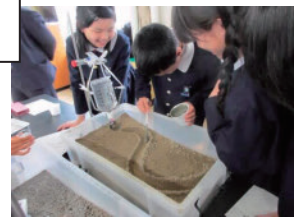
新学習指導要領では、「カリキュラム・マネジメント」が注目されています。「教育課程」は、学校が主体となって、学習指導要領を踏まえながら教育計画に基づいて編成されます。各学校では、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織します。そのためには、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められます。つまり、防災教育の実践にも、子供たちや地域の実情等を踏まえて、各学校の教育目標の実現と連動し、学習指導要領等に基づいた教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく必要があります。

防災教育を含め、今回の改訂が目指す理念を実現するためには、教育課程全体を通じた取組を通じ、「教科横断的な視点からの教育活動」、「学校全体の取組を通じた教科等や学年を越えた組織運営」、の改善が求められ、各学校が編成する教育課程を核に、教育活動や組織運営などの学校の全体的な在り方を改善していくことが重要とされています。

カリキュラム・マネジメントの確立

(1) 各教科等の防災教育に関連した内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していきましょう。

理科, 社会科, 生活科, 家庭科, 総合的な学習の時間 等



(2) 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し (Plan), 実施し (Do), 評価し (Check) て改善を図る (Action) 一連の PDCA サイクルを確立しましょう。

全国学力・学習状況調査

長野県内市町村の自然災害の影響

(3) 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせましょう。

学校安全総合支援事業アドバイザー等

アクティブ・ラーニングとの連動

(1) 「アクティブ・ラーニング」は、新学習指導要領でも重視される「主体的、対話的で深い学び」を引き出すことを意図します。さらに、それを通して「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育むという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものであると言えるでしょう。また、「カリキュラム・マネジメント」は、学校の組織力を高める観点から、学校の組織及び運営について見直しを迫るものと期待されています。

(例)小学校高学年の場合

○体験したことを文章に書こう
洪水について分かったことを書いて友達に伝える。
○被災地の人達に手紙を書こう。国語

○地域社会における災害
自分達の町で過去に起きた災害について調査する。社会

総合的な学習の時間

私たちの町の豊かな水→水を利用した農作物について調べよう→扇状地のつくりについて調べよう→豊富な水資源の素晴らしさについて、みんなに発信しよう→〇〇川の過去の氾濫について調べよう→洪水の危険について調べよう→洪水時の避難の仕方について考えよう

○自分の町の流れる河川の働きについて、侵食・運搬・堆積作用について考えよう。また、地域の地形やその特徴として、地震や火山、土砂災害が多いことを教える。理科

○目的に合わせて書こう
防災に対する意識のアンケート調査をし、グラフを作成し、ポスター発表をする。国語・算数

例えば、上の図のように、総合的な学習の時間を中核とし、児童・生徒の意識の流れに合わせて、各教科の学習内容を関連させていきます。必要に応じて、教科の学習時期を調整します。

(2) 新学習指導要領で提起された「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」は、授業改善や組織運営等の改善など、学校の全体的な改善を行うための鍵となる二つの重要な概念として位置付けられるものであり、相互の連動を図り、機能させることが大切です。教育課程を核に、授業改善及び組織運営の改善に一体的・全体的に迫ることのできる組織文化の形成を図り、「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」を連動させた学校経営の展開が、それぞれの学校や地域の実態を基に展開されることが求められています。

災害には、その地域固有の特色があるため、防災教育には、児童・学校・地域の実態を考慮した創意工夫を活かした特色のある取組が求められています。

また、防災教育では、自分達が住む地域を取り扱い、日常生活に活かすことができるため、「総合的な学習の時間」で重要視されている「実生活や実社会とのかかわりを重視した学習活動」の展開が可能です。その際に家族、地域住民、専門家など、様々な人々とのネットワークの中で展開することが重要です。そのことが、災害に強い地域コミュニティの構築、地域防災力の向上にもつながると考えられます。

柱4 様々なケースを想定した防災訓練

重要な避難訓練の方法

- 1 段階的な訓練（年に複数回）を行う
- 2 校内放送以外の指示も想定する
- 3 雨天時の避難も想定する
学校以外の二次避難場所も検討しておく
- 4 子供たちの自主的な避難も促す

次の様な場合も考える必要があります。

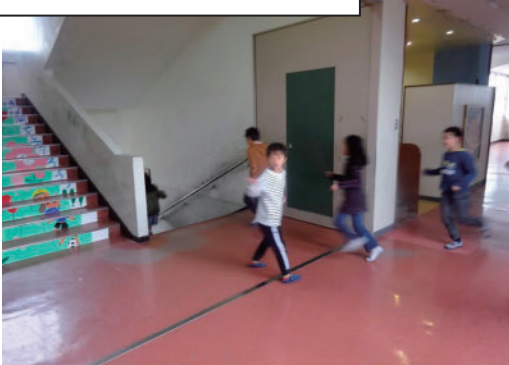
- ・揺れが大きいと1次避難の放送ができない。
(停電になると放送機器が使用できない)
- ・サイレンより前に地震がおきている。
- ・地震に遭遇するのは教室だけではない。
(最も安全な場所、姿勢をとる。)
- ・登下校中に地震が発生した場合の対応。
- ・登校後や休み時間、放課後等、教員がいつも近くにいるとは限らない。

避難訓練や準備の改善（例）

- ☆事前に「**落ちてこない、倒れてこない、移動してこない**」場所を探す指導をする。
- ☆**緊急地震速報**の報知音*を活用し、教員の指示が伝わりにくい休み時間、清掃中等に実施する。（*許可が必要です）
- ☆**停電時も予想**し、メガホンなどによる連絡も考える。
- ☆学校全体でなく、クラス、学年単位、時には地域、家庭と連携して実施する。
- ☆**教員自身も避難**しながら、同時に行動を判断する。

学校危機管理マニュアル作成の手引（文部科学省，平成30年3月，各学校に配布）等も参考にしましょう

「おはしも」を徹底



机の（対角線の）脚を持つ



「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に避難



引き渡し訓練も重要



安全な場所でしょうか？

地域と連携した防災訓練（避難所の開設等）が重要です

災害発生時、学校や教員の役割は、児童生徒の安全確保、児童生徒の安否確認、学校教育活動の早期正常化です。避難所運営は、市町村防災担当部局の業務となります。

しかし実際は、東日本大震災や熊本地震等の教訓から、すぐに防災担当部局が避難所運営をすることは厳しいため、教職員の避難所運営の協力が不可欠であることがわかりました。

「大規模災害時の学校における避難所運営の協力に関する留意事項について（通知）」
（平成 29 年 1 月 20 日：文部科学省初等中等教育局）

1. 学校が避難所になった場合の運営方策
2. 学校の組織体制の整備（養護教諭）
3. 災害時における教職員の避難所運営への協力業務と教職員の意識の醸成
4. 教職員が避難所運営の協力業務に従事した場合の服務上の取扱い
5. 防災担当部局等との連携・協力体制の構築
6. 地域との連携・協力体制の構築
7. 教育委員会間の連携・協力体制の構築
8. 教育活動の再開

新型コロナウイルス感染症
にも備えましょう

風水害のリスク対応
（河川氾濫・溢水、土砂災害の地域情報）
＋
感染症リスク対応

【日常から】

1. 身のまわりの水害・土砂災害リスクの確認を！
→「防災情報マップ」等で地域の水害や土砂災害リスクの確認

2. 避難先や避難方法、非常持出品の確認を！

→地域の避難所や、経路等の確認をしましょう。避難所が過密になることを避けるため、水害や土砂災害リスクを踏まえ、避難所以外への避難の検討もしておきましょう。

【災害が起こる直前・起きた時】

3. 感染回避は大切ですが、まずは躊躇なく自分の命を守る行動を！（避難指示等）
→自治体等からの正しい情報に基づき、できれば周囲にも声掛けを行いながら、時期を逃すことなく避難しましょう。
4. 避難所では、避難者同士のスペースの確保を！
→手洗いやマスクの着用等の感染症対策の徹底はもちろん、各家庭間で概ね 2m の間隔の確保をお願いします（行政の避難所運営）。

【避難所以外の避難例】

「在宅避難」（ハザードマップ等）

自宅で安全を確保できる場合は、自宅の 2 階などの浸水しない高い場所への避難

「親戚・友人宅への避難」（感染経路の安全性・把握等）

親戚や友人の協力が得られる場合の避難

「車中泊」（ストレス、水分補給等）

エコノミークラス症候群に注意を払いながら、安全な場所にて車中泊を行う避難

→あらかじめ準備している非常持出品に、マスク、体温計、ビニール袋、アルコール消毒液、ウェットティッシュ等の感染症対策用品も加えておきましょう。

『コロナ禍における一次救命処置』

令和2年5月、厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法について（指針）」が示されました。コロナ禍でも人の命を救うために、できる限り感染防止に努めながら一次救命処置の実施とそのための講習を行いましょう。

基本的な考え方

心肺蘇生にはエアロソル（ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気）を発生させる可能性があるため、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応する。

マスクの着用も忘れずに！

一次救命処置の具体的手順

- ① 安全確認 ② 反応（意識）を確認。顔を近づけすぎないこと
- ③ 119番通報とAEDの手配 ④ 呼吸を観察
- ⑤ 胸骨圧迫。エアロソルの飛散を防ぐため、開始前に、ハンカチやタオルなどを傷病者の鼻と口にかぶせる。マスクや衣服などでも代用できる。
- ⑥ 人工呼吸は行わず、1分間に100～120回のテンポで胸骨圧迫を30回以上続ける。
（子供の心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が比較的高い。技術と意思がある場合に実施。）
- ⑦ AEDを使用 ⑧ 心肺蘇生を続ける

心肺蘇生の実施の後

救急隊の到着後に、傷病者を救急隊員に引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄するのが望ましい。

※ 上記手順に記載のない点は、従来どおりの一次救命処置を実施する。

参考資料：文部科学省・厚生労働省通知（一般財団法人日本救急医療財団心肺蘇生法委員会）



写真提供：長野県体育センター

柱5 身近な地域を知る学習（子供がつくる防災マップ）

登下校中の児童生徒の命を守る－自ら考え行動できる力を養おう

学校の責任範囲における児童・生徒の安全確保は至上命題です。学校内では防災管理を充実させることで、発災時の命を守る対応を進めます。一方、登下校時に災害が発生した場合、児童生徒全ての安全を管理することはできません。児童生徒一人一人が、安全な退避行動を取れること、何に注意しどう行動することがベストな選択かを考え動けることが大切です。そのためには、登下校中の危険や安全に関わる情報を事前に知り、自ら考え行動できる力を身に着ける防災教育がかかせません。また地域の力を借りることも大切です。柱5では、これら身近な地域を知る学習について、防災マップづくりの事例を通じて示します。

児童生徒が通学路を中心にテーマを決めてグループで歩き、地震や水害、土砂災害など通学路でどんな災害が起こり、何が危険なのかを実際に見て考えてもらう。災害時に役立つ情報も収集しその結果を地図に記入します

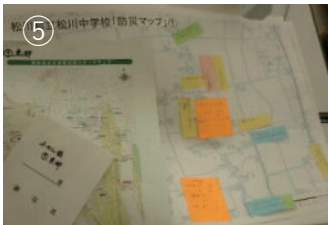


教師の目が届かない登下校時の対策として、登下校路の危険情報や災害時に役立つ資源情報について、児童・生徒自ら歩き確認してもらう。危険情報は災害種に応じて様々であり、地震では倒れてくる、落ちてくるもの、水害であれば、蓋やガードの無い側溝、湛水時は通行できないアンダーパスなど様々です。また資源情報には、安心の家、消火栓、災害時に使える井戸などの情報があります。何が危険でなにが役立つのか考えてもらい、実際に確認することが大切です。



①大雨の時溢れて通れないかも？ ②土石流危険渓流 ③自動販売機は空でも450kg ④ブロック塀など下敷きに。

また、災害が起こったら児童生徒だけでどう対応するのか話し合います



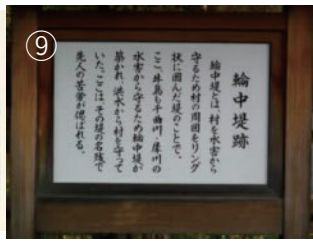
⑤フィールドワークの結果を示した地図 ⑥成果を話し合う ⑦電子地図に入力。

フィールドワークで気づいたことをメモし地図に記録します。帰校後、なにが危なかったのか、役立つのか、またどう行動すべきか、その成果を話し合います。話し合いで新たな気づきがあり、再度フィールドワークへ。最終的な成果は電子地図へ入力し、地図化します。

児童生徒が自らの判断で適切に対応できる力を身に着けることをめざします

目的は防災マップをつくることではなく、防災マップづくりを通じて、児童生徒が地域の危険に気づき、どう行動すれば良いか考えるところにあります。これはまさに地域を知る学習です。

地域の災害史や災害文化にも目を向けよう



⑧昭和44年高瀬川水害の様子（松川村史より） ⑨牛島輪中堤跡 ⑩戊の満水で助かった離山神社
⑪1847年善光寺地震で脱落した鐘と柱の傷

地域を知る学習では、地域で起こった過去の災害、暮らしに根付く災害との関わりとしての災害文化などにも触れることで、地域への更なる理解が深まります。

タブレット端末とアプリを用いた防災マップづくりの学習

信州大学廣内研究室ではNPO法人DoChubuと協力し、Web-GIS（地理情報システム）のeコミマップとリンクするタブレット用アプリ「フィールドオン」を開発しています。柱5を実践する上で、授業時数を削減し、情報の収集、管理を効率的に行う仕組みです。タブレット端末を活用し、児童生徒が興味を持って簡単に使える仕組みづくりをめざしています。実際の活用事例は、本冊実践事例にあります。



学校からスタート



メニュー画面



危険個所を見つけたらメニューから写真撮影、アイコンを選び、ローマ字でコメントを入力



登録後の地図画面

GPSで撮影位置と写真、コメントが紐づき表示



「しゃしんをみる」

学校に戻り一覧を確認しながらコメント修正



eコミマップに統合

各グループの情報がWifi経由でeコミマップに集積される。各班の成果を発表



児童が持ち歩くタブレットはオフラインで機能し、学校のWifiでクラウドサーバーに集積。集まった情報は、eコミマップに統合され、管理される

災害の記録・記憶を継承し、防災教育に活用する～災害デジタルアーカイブ



2014年に発生した長野県神城断層地震の記録やインタビューが集積され、防災教育に活用されています。

<https://kamishiro.shinshu-bousai.jp/>



<https://chikuma-archive.shinshu-bousai.jp/>

令和元年千曲川水害のアーカイブ作成も令和2年より始まっています（令和3年公開予定。写真はデモサイト）

ハザードマップの使い方

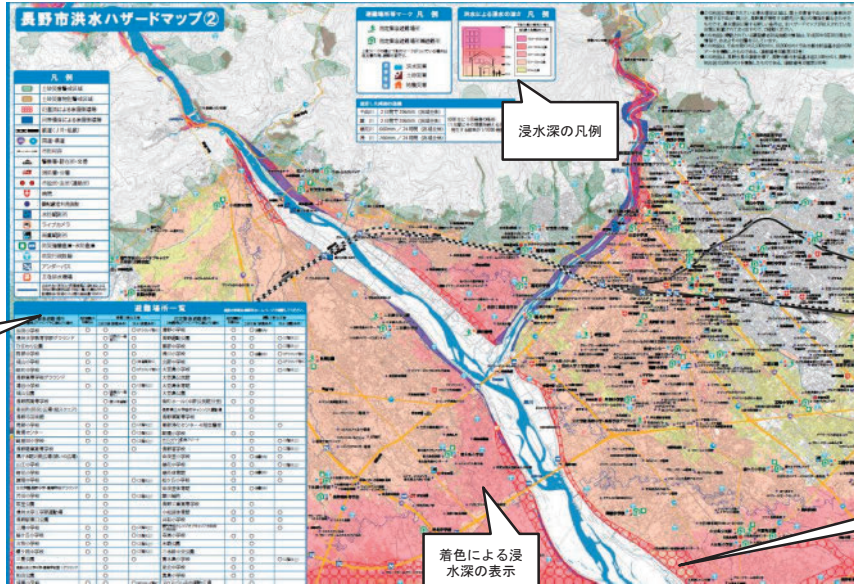
1. 洪水ハザードマップとは？

各市町村が発行する洪水ハザードマップは、河川管理者が作成した「浸水想定区域図」を元に作成されています。洪水ハザードマップから、学校等の浸水リスクを正しく把握し、安全な避難所等を考えながら、避難行動をとる事が大切です。浸水リスクについては、次の3つの情報があります。

- 浸水深
川が氾濫した場合の水が浸かる深さ
- 浸水継続時間 *注
水が浸かっている時間(50cmを越え50cm以下になるまでの時間)
- 家屋倒壊等氾濫区域 *注
水の流れによって、家屋が倒壊する恐れのある区域

浸水リスクを把握した上で、リスクの及ばない範囲にある避難所等への水平避難、もしくは高い建物等への垂直避難を行えるよう考えなければなりません。(*注 市町村によっては洪水ハザードマップに記載が無いことがあります。その際には関係する河川の「浸水想定区域図」を確認してください。)

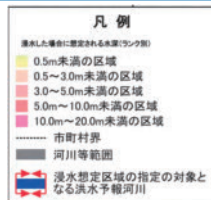
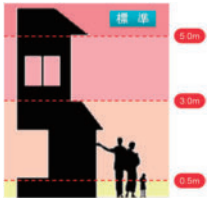
洪水ハザードマップの例：
長野市



2. 想定される浸水状況を知る（ハザードマップ等の表示例）

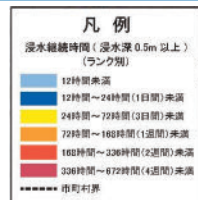
■ 浸水深

浸水深はハザードマップから確認できます。



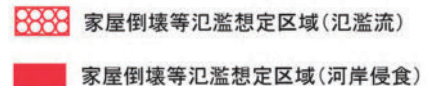
■ 浸水継続時間

浸水継続時間は浸水深が50cm以上となる時間です。
浸水継続時間はハザードマップ等*注から確認できます。
浸水継続時間が長い程、孤立化により飲食等の生命維持が困難になります。



■ 家屋倒壊等氾濫区域

家屋倒壊等氾濫区域は、氾濫流などにより家屋が倒壊する恐れのある区域を示します。
家屋倒壊等氾濫想定区域はハザードマップ等*注から確認できます。



*注 市町村によっては洪水ハザードマップに記載が無いことがあります。その際には関係する河川の「浸水想定区域図」を確認してください。

3. ハザードマップ活用の留意点

洪水ハザードマップは例えば500年や1000年に1回程度発生する洪水について、堤防が切れる位置などを仮定し、降水量や標高に基づいて、氾濫状況を想定し作成したものです。したがって実際の氾濫が発生した場合には、必ず想定通りになる訳ではなく、想定を超える雨がふれば想定よりひどくなることも、また想定に満たない場合もあるものです。学校や通学路が浸水想定範囲に入っていないからといって、必ずしも被災しないことを保証するものではありません。また支流の氾濫や内水氾濫は、多くの場合考慮されていません。ハザードマップへの記載内容をよく読んでその特性を十分に理解し、避難計画策定等に活用してゆく必要があります。

Ⅲ 防災教育の計画例

1 校種別学校安全計画例と災害安全に関する指導の内容例（P52～61）

この表は学校安全計画に記載すべき項目と全体像を示し、各教科等における内容については、あくまで例として記載したものです。各学校においては、それぞれの教育目標や児童生徒の実態を踏まえたうえで学習指導要領をもとに必要な内容を記載してください。

※「学校安全計画例（小・中・高・特）」については、文部科学省資料「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」付録 P128～135を引用し、長野県教育委員会において色分けや指導案掲載ページを加筆してあります。
また、防災に関係するものを黄色でマークしてあります。

※「災害安全」については、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」付録 P144～145をそのまま掲載してあります。

2 学習指導案例（P62～66）

指導案例には、いろいろなものがありますが、ここでは、県内で起きた身近な災害を踏まえた、小学校の学級活動や総合的な学習の時間で行える指導案の例と、どの学校種でもすぐに使える、日本赤十字社の青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」（抜粋）を紹介します（各学校に配布済み）。「まもるいのち ひろめるぼうさい」については、日本赤十字社のホームページをご覧ください。日本赤十字社長野県支部までご連絡ください。

※ 次の章で紹介している、各学校の実践例（指導案等）も参考にしてください。

項目		4	5	6	7・8	9	
月の重点		通学路正しく歩こう	安全に休み時間を過ごそう	梅雨時の安全な生活をしよう	自転車のきまりを守ろう	けがをしないように運動をしよう	
道徳		規則尊重	生命の尊重	思いやり・親切	勤勉努力	明朗誠実	
安全 全 教 育	生活	・遊具の正しい使い方 ・校内探検 廊下の歩き方、安全な校内での過ごし方	・地域巡り、野外観察の交通安全 ・活動に使用する用具等の安全な使い方	・通学路の様子、安全を守っている人々の働き	・虫探し・お店探検時の交通安全	・はさみの使い方	
	社会	・我が国の国土と自然環境（5）	・地域の安全を守る働き（消防署や警察署）（3）	・自然災害と人々を守る行政の働き（4）	・地域におこる自然災害と日頃の備え（4）	・国土の保全と国民生活（自然条件と災害の種類や発生の位置や時期）（5）	
	理科	・天気の変化 ・ガスバーナーの使い方など正しい加熱、燃焼や気体の発生実験	・カバーガラス、スライドガラス、プラスチックなどガラス実験器具の使い方	・雨水の行方と地面の様子 ・実験・観察器具の正しい使い方	・夜間観察の安全	・天気の変化と災害	
	図工	・ハサミ・カッター・ナイフ・糸のこぎり・金づち・釘抜き・彫刻刀・ペンチ等の用具、針金・竹ひご・細木、					
	家庭	・針、はさみの使い方 ・用具の個数確認	・アイロン等の熱源用具の安全な取扱い	・食品の取扱い方	・包丁の使い方 ・調理台の整理整頓	・実習時の安全な服装	
	体育	・固定施設の使い方 ・運動する場の安全確認	・集団演技、行動時の安全	・水泳前の健康観察 ・水泳時の安全		・鉄棒運動の安全	
	総合的な学習の時間	「〇〇大好き～町たんけん」（3年） 「交通安全ポスターづくり」（4年）					
	学級 活 動	低学年	・通学路の確認 ◎安全な登下校 P62 ・安全な給食配膳 ・子ども110番の家の場所	・休み時間の約束 ◎防犯避難訓練の参加の仕方 ・遠足時の安全 ・運動時の約束	・雨天時の約束 ◎プールの約束 ・誘拐から身を守る	・夏休みの約束 ◎自転車乗車時の約束 ・落雷の危険	◎校庭や屋上の使い方のきまり ・運動時の約束
		中学年	・通学路の確認 ◎安全な登下校 P62 ・安全な清掃活動 ・誘拐の起こる場所	・休み時間の安全 ◎防犯避難訓練への積極的な参加 ・遠足時の安全 ・運動時の約束 ◎防犯教室（3年生）	・雨天時の安全な過ごし方 ◎安全なプールの利用の仕方 ・防犯にかかわる人たち	・夏休みの安全な過ごし方 ・自転車乗車時のきまり ・落雷の危険	◎校庭や屋上の使い方のきまり ・運動時の安全な服装
		高学年	・通学路の確認 ◎安全な登下校 P62 ・安全な委員会活動 ・交通事故から身を守る ◎身の回りの犯罪	・休み時間の事故とけが ◎防犯避難訓練の意義 ・交通機関利用時の安全	・雨天時の事故とけが ◎救急法と着衣泳 ・自分自身で身を守る ◎防犯教室（4、5、6年生）	・夏休みの事故と防止策 ・自転車の点検と整備の仕方 ・落雷の危険	◎校庭や屋上で起こる事故の防止策 ・運動時の事故とけが
児童会活動等		・新1年生を迎える会	・児童総会 ・クラブ活動、委員会活動開始		・児童集会 ・地域児童会集会		
主な学校行事等		・入学式 ・健康診断 ・交通安全運動	・運動会・遠足 ・避難訓練（不審者）	・自然教室 ・集団下校訓練（大雨等） ・プール開き		・交通安全運動 ・総合防災訓練（地震→引渡し）	
安全管理	対人管理	・安全な通学の仕方 ・固定施設遊具の安全な使い方	・安全のきまりの設定 ・電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方	・プールでの安全のきまりの確認	・自転車乗車時のきまり、点検・整備 ・校舎内での安全な過ごし方	・校庭や屋上で安全な過ごし方	
	対物管理	・通学路の安全確認 ・避難経路の確認 ・安全点検計画	・諸設備の点検及び整備	・学校環境の安全点検及び整備	・夏季休業前や夏季休業中の校舎内外の点検	・校庭や屋上など校舎外の整備	
学校安全に関する組織活動（保護者、地域、関係機関等との連携）		・登下校時、春の交通安全運動期間の街頭指導（保護者等との連携）	・校外における児童の安全行動把握、情報交換	・地域ぐるみの学校安全推進委員会 ・学区危険箇所点検	・地域パトロール意見交換会	・登下校時、秋の交通安全運動期間の街頭指導地域パトロール（保護者等との連携）	
研修		・通学路の状況と安全上の課題 ・防犯に関する研修（緊急時の校内連絡体制マニュアルの点検）	・熱中症予防と発生時の対応 ・安全教育に係るカリキュラム・マネジメントの考え方	・応急手当（止血等、心肺蘇生とAEDを含む）研修（PTAと連携）	・遊具等の安全点検方法等	・防災に関する研修（訓練時）	

この表は学校安全計画に記載すべき項目と全体像を示し、各教科等における内容については、あくまで例として記載したものです。各学校においては、それぞれの教育目標や児童の実態を踏まえたうえで、学習指導要領をもとに必要な内容を記載してください。

10	11	12	1	2	3
乗り物の乗り降りに気をつけよう	けがをしないように運動をしよう	安全な冬の生活をしよう	災害から身を守ろう	道路標識を守ろう	安全な生活ができるようにしよう
思いやり・親切	家庭愛	勇気	勤勉努力	節度節制	愛校心
・竹ひご、つまようじ、きりの使い方	・郵便局見学時の安全	・はさみ、ステープラの使い方	・はさみの使い方	・昔遊びの安全な行い方	・移植ごての使い方
			・自然災害からの復旧・復興(6)		
・薬品の正しい使用・管理・廃棄	・流れる水の働き ・河川の働きと水害 ・ポリ袋、ゴム風船の使い方	・土地のつくりと変化 ・(地震・津波・火山活動と災害) ・鏡、凸レンズ、ガラス器具の使い方	・夜間観察の安全	・試験管、ビーカー、フラスコ、ガラス管の使い方	
接着剤・ニス等の造形活動で使用する材料や用具等の安全な扱い方					
・熱湯の安全な取扱い方	・ミシンの使い方	・油の安全な取扱い方	・食品の取扱い方	・包丁の使い方	・実習時の安全な服装
・用具操作の安全	・けがの防止(保健)	・ボール運動時の安全	・持久走時の安全	・跳躍運動時の安全	・器械運動時の安全
「安全マップづくり」(5年) P63 「社会の一員として活動しよう」(6年)					
◎乗り物の安全な乗り降りの仕方 ・廊下の安全な歩行の仕方	◎誘拐防止教室 ・安全な登下校	安全な服装 ◎冬休みの安全な過ごし方	◎「おかしも」の約束 ・危ないものを見つけたとき	◎身近な道路標識 ・暖房器具の安全な使用	・1年間の反省 ◎けがをしないために
◎車内での安全な過ごし方 ・校庭・遊具の安全な遊び方	◎校庭や屋上の使い方のきまり ・安全な登下校	◎冬休みの安全な過ごし方 ・凍結路の安全な歩き方	・「おかしも」の約束 ◎安全な身支度	◎自転車に関係のある道路標識 ・暖房器具の安全な使用	・1年間の反省 ◎けがをしやすい時間と場所
◎乗車時の事故とけが ・校庭・遊具の安全点検	◎校庭や屋上で起こる事故の防止策 ・安全な登下校	◎冬休み中の事故やけが ・凍結路の安全な歩き方	◎災害時の携行品 ・安全な身支度、衣服の調節	◎交通ルール ・暖房器具の安全な使用	・1年間の反省 ◎けがの種類と応急処置
		・児童集会			
・修学旅行	・収穫祭、音楽発表会	・避難訓練(火災)	・学習発表会	・ありがとう集会 ・(地域の見守り隊等) ・避難訓練(地震)	・卒業式
・校外学習時の道路の歩き方 ・電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方	・安全な登下校	・凍結路や雪道の歩き方	・災害時の身の安全の守り方	・道路標識の種類と意味	・1年間の評価と反省
・駅・バス停周辺の安全確認	・通学路の確認	・校内危険箇所の点検	・防災用具の点検・整備	・学区内の安全施設の確認	・通学路の安全確認 ・安全点検の評価・反省
・学校安全委員会(学校保健委員会)	・地域教育会議	・年末年始の交通安全運動の啓発	・地域パトロール意見交換会	・学校安全委員会(学校保健委員会)	・地域ぐるみの学校安全推進委員会
・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修	・学校安全における先進的な実践校の視察	・防災に関する研修(訓練時)	・各種訓練結果の検証と各マニュアルの見直し	・災害共済給付、交通事故の事例等から指導のポイント分析	・安全教育的指導計画作成に向けた考え

項目		4	5	6	7・8	9		
月の重点		安全な登下校ができるようになる	けがのない体育祭にしよう	梅雨期を安全に過ごす	熱中症に気を付けよう	過去の災害を知り、災害に備えた生活をしよう		
道徳		生命の尊さ	よりよい学校生活、集団生活の充実	自主・自立、自由と責任	遵法精神、公德心	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度		
安全	社会	日本の様々な地域（地域調査） ・防災を視点とした地域調査						
	理科	・理科室における一般的注意 ・実験時の危険防止とふさわしい服装	・薬品やガラス器具の使い方 ・加熱器具の使い方 ・備品の点検整備	・薬品の保管・廃棄等	・薬品検査 ・野外調査・天体観察の留意点	・自主研究の実験場の注意 ・電気についての知識		
	美術	・美術室の備品と安全な行動	・備品の点検整備	・彫刻刀の正しい使い方	・ニードル等の道具の使用の注意 ・備品検査	・版画用プレス機の使い方		
	体育分野	・集団行動様式の徹底 ・施錠や用具の使い方	・自己の体力を知る（体力テストの実施）	・水泳の安全な行い方と事故防止		・陸上運動の適切な場所の使い方と安全な行い方		
	保健分野		・交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	・熱中症予防				
	技術・家庭	・施設・設備の使用上の注意 ・作業場所の確保 ・実習室の使用上の注意	・安全、適切な制作 ・金属材料の性質と切断 ・ガスコンロの使い方 ・換気、ゴム管の点検	・工作加工機械や工具の安全な点検	・切断切削加工時の安全 ・備品の点検整備 ・備品の点検整備	・工作機械の安全な利用 ・電気機器の安全な利用 ・食生活と健康		
	実験、実習を伴う教科	・実験に使用する加熱器具やガラス器具等の安全な使い方、薬品の安全な取扱いと適正な保管・廃棄 ・造形活動や加工、調理等の各種作業で使用する機械や工具、電気、ガス製品の安全な利用と整備点検						
	総合的な学習の時間	〈活動例〉「わが町の交通安全対策調べ」「学区安全マップづくり」「災害とまちづくり・くにつくり」など						
	育	学級	第1学年	・通学路の確認 ・部活動での安全 ・自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	・体育祭の取組と安全 ◎災害時の安全な避難の仕方と日常の備え ・清掃方法を確認しよう	・雨天時の校舎内での過ごし方 ・校内での事故と安全な生活 ◎水泳、水の事故と安全	・落雷の危険や風水害 ・自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全（防犯） ・プール・海・川等の水難事故防止	◎地震の危険 ・市総合体育大会と安全
			第2学年	・通学路の確認 ・自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	・体育祭の取組と安全 ◎交通事故防止を考えよう	・雨天時の校舎内での過ごし方 ◎水泳、水の事故と安全	・自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全（防犯） ・プール・海・川等の水難事故防止	◎地震の危険と避難 ・市総合体育大会と安全
第3学年			◎犯罪被害の防止や通報の仕方 ・登下校の安全 ・自分でできる安全点検	・体育祭準備 ◎心の安定と事故	◎水泳、水の事故と安全 ◎修学旅行と安全	・自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全（防犯） ・プール・海・川等の水難事故防止	◎地震の危険と避難 ・市総合体育大会と安全	
生徒会活動		・部活動紹介	・体育祭 ・校内安全点検活動	・生徒会総会 ・中体連壮行会	・球技大会			
主な学校行事等		・学校説明会 ・交通安全運動 ・避難訓練（地震）	・新体力テスト ・体育祭	・修学旅行 ・避難訓練（不審者） ・心肺蘇生法講習会	・夏の交通安全運動	・避難訓練（地震→引渡し） ・秋の交通安全運動		
部活動		・活動ガイダンス ・練習の進め方指導	・部活動保護者会	・熱中症予防指導				
安全管理		対人管理	・通学方法の決定 ・安全の決まりの設定（校則の確認・周知）	・身体の安全について及びけがの予防	・校舎内の安全な過ごし方 ・プールにおける安全な活動	・自己点検のポイント ・救急体制の見直し ・夏季休業中の部活動での安全と対応	・身体の安全について及びけがの予防	
	対物管理	・通学路の確認	・運動場など校舎外の整備 ・安全点検年間計画、点検方法の確認	・学校環境の安全点検及び整備（階段・廊下・プール）	・夏季休業前や夏季休業中の校舎内外の点検	・諸設備の点検及び整備		
学校安全に関する組織活動（研修含む）		・春の交通安全運動期間の啓発活動、街頭指導 ・学区危険箇所点検 ・危機管理体制に関する研修	・校外における生徒の安全行動把握、情報交換 ・熱中症予防に関する研修	・学校安全に関する協議会 ・心肺蘇生法（AED）研修・防犯に関する研修（マニュアルの確認）	・地域パトロール ・学校が避難所になった場合の市職員や自主防災組織との話し合い等	・防災の日 ・秋の交通安全運動の啓発と街頭指導 ・防災に関する研修（避難訓練）		

この表は学校安全計画に記載すべき項目と全体像を示し、各教科等における内容については、あくまで例として記載したものです。各学校においては、それぞれの教育目標や生徒の実態を踏まえたうえで、学習指導要領をもとに必要な内容を記載してください。

10	11	12	1	2	3
交通法規を理解し守れるようになる	危険を予測し、安全な生活ができるようになる	安全な地域づくりに貢献できるようになる	厳冬期を安全に過ごす	事故や災害を乗り越えた人の生き方について学ぼう	新生活に向けて安全な生活ができるようになる
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	国際理解、国際貢献	社会参画、公共の精神	家族愛、家庭生活の充実	感動、畏敬の念	よりよく生きる喜び
日本の地域的特色と地域区分 ・地形や気候の特色、国土の特色 ・自然災害と防災への取組			現代日本の特色（情報化） ・災害時における防災情報の発信・活用		
・電気器具の使い方	大地の成り立ちと変化 ・火山活動と火成岩 ・火山災害	・地震の伝わり方と地球内部の働き（地震・津波発生のメカニズム等）	・自然の恵みと火山災害、地震災害	天気とその変化 ・気象観測 ・天気の変化 ・日本の天気と気象災害への備え	・自然の恵みと気象災害 ・地域の自然災害
・小型ナイフの使い方	・打ち出し用具の使い方	・塗装の際の一般的な注意	・カッター、はさみ、コンパス等の使用上の注意	・絵の具、用具の保管や管理の指導	・教室での一般的諸注意 ・器具、用具の点検
・器械運動における段階的な練習と適切な補助の仕方	・長距離走における健康状態の把握と個人の体力にあったペース配分	・武道における場所、用具の適切な使い方と手入れ（禁じ技など）	・サッカーにおける適切な用具、場所の使い方（ゴールの運搬や固定の仕方等）	・バスケットボールにおける適切なルールやマナーの徹底、ゲームの安全	・器具用具の点検 ・備品整理
	・交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	・交通事故などによる傷害の防止	・自然災害による傷害の防止	・応急手当	
・塗装時の換気や火気	・暖房と換気について ・床に落ちているものの危険性	・屋内配線と家庭電気の安全な利用	・電子機器の利用と安全（はんだ付けによる火傷の注意）	・加熱と漏電 ・電気製品製作上の安全配慮	・器具点検整備
・自然災害に備えた住空間の整え方	・幼児や高齢者等との交流についての注意	・衣服製作についての一般的な注意 ・裁縫用具の適切な管理	・アイロン、ミシンの適切な使い方	・備品の点検整備	・備品検査
※定期的な備品検査（台帳管理）					
・文化祭の準備と安全 ◎交通法規の意義と安全	・自分の健康チェック（持久走大会と安全）	・冬休みの生活設計と安全 ・火気の注意 ◎災害への備えと協力（地域の一員として）	自転車の安全で正しい利用 ◎交通事故の加害と被害 ・ボランティア活動の意義の理解と参加	・施設の安全な利用 ◎降雪時の安全 ・けがの発生状況とその防止	・1年間の反省 ・球技大会や3年生を送る会での安全
◎部活動の安全とリーダーの役割 ・文化祭の準備と安全	・自分の健康チェック（持久走大会と安全）	・冬休みの生活設計と安全 ・火気の注意 ◎災害への備えと協力（地域の一員として）	◎交通事故の加害と被害 ・ボランティア活動の意義の理解と参加	◎降雪時の安全 ・けがの発生状況とその防止	・1年間の反省 ・球技大会や3年生を送る会での安全
◎交通事故の原因と事故の特性	・自分の健康チェック（持久走大会と安全）	・冬休みの生活設計と安全 ・火気の注意 ◎災害への備えと協力（地域の一員として）	◎交通事故の加害と被害 ・ボランティア活動の意義の理解と参加	◎降雪時の安全 ・けがの発生状況とその防止	・1年間の反省 ・球技大会や3年生を送る会での安全 学校、教室環境の整備修繕（奉仕活動）
・文化祭 ・市総体壮行会 ・文化祭	・市駅伝大会壮行会 ・持久走大会		・ボランティア活動などの社会参加 ・防災訓練と防災学習	・生徒会総会 ・自然教室	・球技大会 ・3年生を送る会
		・冬季に多い傷害予防			
・文化祭の準備と安全	・携帯電話・パソコンの安全な使い方	・避難時の約束について	・自転車の正しい利用と危険防止	・施設・設備等の安全な使い方について	・1年間の人的管理の評価と反省
・学校環境の安全点検及び整備（体育館）	・避難経路の確認 ・防火設備、用具の点検整備	・避難所として開放する場所の点検	・学校環境の安全点検及び整備（通学路）	・学校環境の安全点検及び整備（備品）	1年間の学校環境安全点検の評価と反省
・学校安全委員会 ・校内の点検	・津波防災の日に係る啓発活動 ・自転車の安全な利用に関する研修（指導方法）	・地域防災訓練の啓発 ・通学路の点検	・阪神・淡路大震災（17日）の想起と防災の啓発活動 ・応急手当と緊急時校内連絡体制	・学校評価委員会（学校安全の取組に関する評価） ・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修	・地域交通安全パトロール ・東日本大震災の想起と防災の啓発活動

学校安全計画例（高等学校）

※ホームルーム活動の欄

◎…1単位時間程度の指導

…短い時間の指導

項目		4	5	6	7・8	9
月の重点		安全な通学	学校生活での安全	梅雨期の健康安全	野外活動での安全	学校行事での安全
安 全 教 育	地理歴史・公民		・(地)世界の地形・気候と自然災害	・(地)地域の自然環境の特色と自然災害		・(地)ハザードマップと自然災害への備え
	理科	・実験器具等の安全な扱い方 ・施設・設備・薬品管理等の点検	・(科)自然景観と自然災害 ・(地)自然の恩恵と自然災害	・(地)火山活動と地震		・(地)日本に見られる気象現象の特徴、災害の予測と防災
	保健体育	・体育施設・用具の安全点検	・(保)安全な交通行動と事故防止	・水泳の安全 ・熱中症の予防 ・(保)応急手当		・(保)犯罪被害の防止
	家庭					
	実験・実習を伴う科目	・施設器具・機械の取扱いと使用上の注意、点検・整備 熱源・電気器具の取扱いと使用上の注意、点検・整備				
	総合的な探究の時間	〈学習活動例〉テーマ「地域の安全と防災」 防災ホームページの閲覧、災害の種類と対応（防災壁新聞・ポスター・パンフレット作成）、東日本大震災について、総合探究のまとめ				
	1年ホームルーム活動	◎高校に入学して ・通学時の安全 ・防災体制の確立 ・犯罪被害の防止	◎交通安全への参加 部活動や休憩時の安全 ・自転車の構造と点検整備	◎通学路に潜む危険 ◎地震と安全 ・雨の日の安全行動	◎夏休みの生活と安全（防犯を含む） ・野外活動の安全 ・落雷の危険	◎地震災害対策 ・避難訓練の課題と改善 ◎歩行者の安全と交通環境 ・通学路の安全
	2年ホームルーム活動	◎2年生になって ・通学時の安全 ・防災体制の確立 ・犯罪被害の防止	◎高校生の心理や行動と事故の特徴 ・部活動と健康管理 ・自転車の安全な利用	◎地震と安全 ・雨の日と安全行動	◎夏休みの生活と安全（防犯を含む） ・野外活動の安全 ・落雷の危険	◎地震災害対策 ・避難訓練の課題と改善 ◎交差点に潜む危険 ・通学路の安全
	3年ホームルーム活動	◎3年生になって ・通学時の安全 ・防災体制の確立 ・犯罪被害の防止	◎幼児・高齢者・障害のある人の心理と行動 ・安全意識と行動 ・自転車の安全な利用	◎運転者の心理と行動特性 ◎地震と安全 ・雨の日と安全行動	◎夏休みの生活と安全（防犯を含む） ・野外活動の安全 ・落雷の危険	◎地震災害対策 ・避難訓練の課題と改善 ◎交通事故の対応と応急手当 ・通学路の安全
	主な学校行事	・交通安全運動への参加 ・定期健康診断 ・1年生オリエンテーション	・学校保健安全委員会の参加 ・救急法講習会 ・交通安全教室 ・3年生生徒指導集会	・避難訓練（火災） ・高校総体 ・保健委員会 ・2年生生徒指導集会	・終業式 ・避難訓練（防犯）（防犯教室も実施） ・夏休みの諸注意	・始業式 ・避難訓練（地震） ・文化祭 ・文化祭実行委員会
個別指導	・自転車、バイク通学許可 ・校門立番指導	・自転車、バイクの点検	・健康診断結果の指導 ・生徒指導全体集会	・校外指導 ・自転車、バイクの実技指導 ・免許取得指導	・自転車、バイクの点検 ・新規免許取得者指導	
部活動	・新入部員オリエンテーション	・用具の点検・整備	・部活動部長会	・救急法実技講習会 ・合宿・遠征の安全	・用具の点検・整備	
生徒会活動	・新入生オリエンテーション	・壮行会	・保健委員会（交通安全アンケート）	・球技大会	・文化祭への準備（交通安全実態調査）	
安 全 管 理	対人管理 学校生活の安全管理	・通学状況調査と登下校指導 ・救急体制の確立 ・下宿、アルバイト調査	・授業時の安全確認（体育実技、農業実習、理科実験、家庭科実習） ・車に係る規則の徹底 ・事故調査と防止対策	・生徒引率の安全確認 ・防災避難訓練の徹底	・長期休業前生活指導 ・大掃除の安全確認	・防災対策の徹底 ・通学路の見直し ・防災避難訓練の徹底 ・文化祭の安全対策 ・授業時の安全管理点検
	対物管理 学校環境の安全管理	・安全点検整備（施設設備、通学路） ・自転車置場施設 ・防災設備の点検整備 ・自家用電気工作物保安点検	・安全点検整備（普通・特別教室、実験実習器具） ・環境整備美化作業 ・毒物劇物の適正な管理について	・安全点検整備（プール、体育館、格技場、部室、運動器具） ・消火器、消火栓、火災報知器の点検	・安全点検整備（校庭、学校全般）	・安全点検整備（普通、特別教室、実験実習器具） ・通学路安全点検 ・防災施設・設備の点検整備
学校安全に関する組織活動（研修含む）		・春の交通安全運動 ・交通街頭指導 ・中高連絡会 ・職員研修（危機管理体制、心肺蘇生とAED）	・PTA総会（危機管理マニュアルの周知） ・保護者会 ・学校安全委員会（安全に関する連携会議）	・保護者面談 ・PTA委員会 ・教職員研修（熱中症の予防）	・生徒指導協議会（学校警察連絡協議会） ・校外指導・危険箇所巡視 ・教職員研修（SNS、犯罪被害）	・国民防災の日の啓発活動への参加（総合防災訓練等） ・秋の交通安全運動 ・教職員研修（自然災害と避難所協力）

この表は学校安全計画に記載すべき項目と全体像を示し、各教科等における内容については、あくまで例として記載したものです。各学校においては、それぞれの教育目標や生徒の実態を踏まえたうえで、学習指導要領をもとに必要な内容を記載してください。

10	11	12	1	2	3
交通道德の理解	安全な行動	事故災害の防止	安全な通学	事故原因と対策	安全な生活
	・(公) 防災情報の理解と活用	・(地) 地球の内部・大気・海洋に関する理解	・(地) 持続可能な地域づくり		
	・(物) 電気器具の取扱い上の注意	・(物) 放射線に関する知識・理解		・(地) 身近な自然環境と自然災害	
・(保) 健康と運動 ・体育大会の事故防止	・体力について	・冬季スポーツの意義 ・校内マラソン大会の安全		・(保) 交通事故の補償と責任	・体育施設・用具の安全点検
	・安全に配慮した衣生活(被服の管理、目的に応じた服装)		・災害などの安全に配慮した住居の機能、住生活や住環境の工夫		
化学薬品の取扱いと使用上の注意、点検・整備					
ボランティア活動体験、地域ハザードマップについて、災害時における応急救護実習、非常食の作り方実習、防災関連施設の見学、今年度					
◎事故災害時の応急手当 ・体育大会の安全	◎自転車加害事故の責任 ・火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ・校内マラソン大会の安全 ・冬休みの生活と安全	◎交通事故の対応と応急手当	◎幼児と老人の心理と行動 ・危険の予測 ・地域の安全活動	◎春休みの生活と安全 ・今年度活動の評価とまとめ
◎修学旅行の安全 ・体育大会の安全	◎危険予測訓練 ・火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ・校内マラソン大会の安全 ・冬休みの生活と安全	◎これからの社会生活と交通問題	◎休業日の交通事故防止 ・規律正しい生活 ・地域の安全活動	◎春休みの生活と安全 ・今年度活動の評価とまとめ
◎事故災害時の応急手当 ・体育大会の安全 ・地域の安全活動	◎運転免許の仕組みと運転者の義務・責任 ・火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ・校内マラソン大会の安全 ・冬休みの生活と安全	◎これからの社会生活と交通問題	◎家庭学習について ・規律正しい生活	◎卒業に当たって ・今年度活動の評価とまとめ
・修学旅行 ・体育大会	・交通安全教室 ・避難訓練(生徒の企画)	・校内マラソン大会 ・避難訓練(火災) ・冬休みの諸注意 ・終業式	・始業式	・学校保健委員会 ・1、2年生(生徒指導集会) ・校内意見発表会	・卒業式 ・終業式 ・春休みの諸注意
・校外巡視	・第2回バイク通学許可 ・校外巡視	・バイク、自動車免許取得の手続 ・校外巡視	・免許取得の指導 ・校外巡視	・校外巡視 ・入社前指導	・校外巡視 ・バイク免許取得の手続
・活動場所の安全点検	・用具の点検・整備	・部室の安全点検	・活動場所の安全点検	・応急手当実技講習	
・体育大会 ・保健委員会(避難訓練の企画)	・保健委員会	・球技大会	・保健委員会	・3年生を送る会	
・修学旅行の安全対策 ・体育大会の安全対策 ・事故災害時の応急手当の徹底	・文化祭の安全対策 ・避難訓練の徹底	・校内マラソン大会の安全対策 ・長期休業前生活指導 ・冬休みの健康管理 ・校内競技大会の安全対策	・暖房の取扱い	・交通規則の徹底	・今年度活動の反省と次年度の計画立案 ・長期休業前生活指導 ・本年度の事故発生のまとめ
・安全点検整備(体育館、部室、運動器具)	・安全点検整備(校庭) ・ストーブの取扱い ・毒物劇物危害防止対策給点検	・安全点検整備(普通・特別教室、実習実験器具) ・防災施設・設備の点検整備	・安全点検整備(体育館、部室、運動器具) ・火気器具の安全点検	・安全点検整備(施設、設備) ・火気器具の安全点検	・安全点検活動の評価 ・次年度の計画立案 ・生徒用机・いすの点検整備 ・防災施設・設備の点検整備
・中高連絡会 ・学校安全委員会 ・計画訪問による理科薬品等の適正な管理点検	・保護者面談週 ・安全に関する広報活動 ・交通安全に関する研修(法令等改正、自転車等安全利用に関する指導方法等)	・交通街頭指導 ・生徒指導協議会(学校警察連絡協議会) ・年末の交通安全運動	・交通街頭指導 ・PTA委員会 ・学校安全委員会 ・教職員研修(防災)	・学校評価委員会(学校安全の取組に関する評価) ・校内、交通事故等発生状況の分析と対策の検討	・今年度活動の評価と次年度の計画立案

学校安全計画例（特別支援学校（知的障害）高等部）

項目		4	5	6	7・8	9
月の重点		通学路の安全を確認しよう	交通安全に気をつけて通学しよう	プールでの事故に気をつけよう	夏休みを安全に過ごそう	交通安全について確認しよう
安全 全 教 育	教 科	保健体育	体育施設・用具の安全な使用	体力テスト用具の点検と使い方	プールにおける安全、救急法講習、心肺蘇生法、危険な動物・植物に近づかない	ソフトボール、キックベースボール等の球技指導における安全
		理科	ガラス製の実験器具、火気利用時、薬品等の注意。（例）フラスコ、ピーカー、バーナー、凸レンズ、針金等の実験器具等の安全な使い方			
	美術	・美術で使用するハサミやカッター、ナイフ、彫刻刀、木槌、土練機などの道具の安全な使い方・竹ひご、銅板、				
	家庭	・調理で使用するガスコンロなどの安全な使い方・ミキサー、電子レンジ、ホットプレートなどの電気製品の安全な使い方 ・針やはさみなどの道具の安全な使い方				
	職業	木工班…ドリルやベルトグラインダーなどの電動工具の安全な使い方・のこぎりなどの工具の使い方・塗料の使い 園芸班…鍬や移植鋤、鎌などの道具の安全な使い方・土篩を使った安全な土のふるい方・野菜や花など育てる上 接客班…実際の接客に必要なコミュニケーション能力の育成・トレイの持ち方、グラスの運び方、テーブルへの置き 方事務班…印刷機、シュレッダーなどの事務用機器の安全な使い方・ハサミやカッターなどの道具の安全な使い方				
	自立活動	・健康の保持（アレルギー対応、緊急薬の保管、再調理の道具等の管理面の充実及び、変化への対応力の育成）、心理的な安定（安心グッズの備えや落ち着ける場所の確保や把握）、人間関係の形成（集団生活におけるルール）、環境の把握、身体の動き（車椅子ごと運べない場合、避難時に抱えられる、背負われる姿勢や過敏の解消）、コミュニケーション（助けてと言える受援力の育成）				
	総合的な学習の時間	・学校における全教育活動との関連を基に計画し、自然体験や活動を促す中で、生徒の自発的な計画に基づき、安全				
	生活安全	情緒の安定 日常生活における安全	集団行動の約束 友達との接し方	一人では行ってはいけない場所、人通りの少ない場所確認	夏休みの過ごし方	自分の身を守る登下校や交通機関の安全な利用方法
	交通安全	登下校時の安全（安全な歩行）	交通安全（警察署員による指導）	雨の日の交通安全（傘のさし方）	交通機関の利用方法	横断歩道のわたり方 自転車の乗り方
	災害安全	避難訓練（地震・津波）訓練の大切さ・落ち着いた行動	避難訓練（火災）煙体験、煙の怖さ・被害、ハンカチの大切さ・避難時の安全行動の徹底	避難訓練（地震から火災へ）頭を守る大切さ、落下物、倒壊物、移動物への注意	避難訓練（継送訓練）大雨による出水・土砂災害等への対応	総合防災訓練（消防署） 引渡し訓練
ホームルーム活動	各月の避難訓練や安全指導に対して学級活動を活用して、事前学習や事後学習を行い児童生徒等がより理解できる					
学校行事等	修学旅行（旅行中の安全）		プール開き 校外学習 現場実習	現場実習	宿泊訓練	
安全管理	対人管理	生徒の状況把握 通学経路の確認 避難経路確認 次月の避難訓練確認 火元責任者の表示	緊急体制の確認 健康観察 避難経路確認	水泳指導健康管理 健康観察 心肺蘇生法の確認	水泳指導健康管理 健康観察 AEDの使い方確認 夏季休業中の安全	水泳指導健康管理 健康観察
	対物管理	防災計画届け出 通学路確認 安全対策マニュアル	飲料水点検 防災設備点検 避難経路点検	プール施設・設備点検 水質検査	各教室、特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック、校内巡回指導	
	学校安全衛生委員会（年3回）、PTA・地域との連携、登下校時刻の通学路交通規制					
学校安全に関する組織活動（研修含む）	春の交通安全運動	職員防災研修	救急法講習会	AED講習会 安全点検	秋の交通安全運動	

第2章

この表は学校安全計画に記載すべき項目と全体像を示し、各教科等における内容については、あくまで例として記載したものです。各学校においては、それぞれの教育目標や生徒の実態を踏まえ、学習指導要領をもとに必要な内容を記載してください。

10	11	12	1	2	3
体育祭を安全に成功させよう	文化祭を安全に成功させよう	冬休みを安全に過ごそう	暖房時の安全を確認しよう	事故防止について確認しよう	春休みを安全に過ごそう
陸上大会の安全 体育祭練習や当日の安全	サッカー等の球技指導における安全	柔道等の武道における安全	バスケット等の球技指導における安全	マラソン大会	マット、跳び箱運動等の安全
・水酸化ナトリウム、塩化ナトリウム等の実験で使用する薬品等の安全な使い方と点検・保管・廃棄、野外観察や野外での注意					
などの材料の安全な使い方 ・写生や共同作品作時等の安全な設定					
使い方 ・包丁、ピラー、調理バサミなどの調理器具の安全な使い方や安全な調理方法を知る ・ミシン、アイロンなどの電気製品の安全な使い方					
方と換気 ・材料の安全な取扱い での安全な作業 など安全な接客					
に対する意識を高める					
不審者から自分を守る (防犯避難訓練)	「子供110番の家」の場所確認	冬休みの過ごし方	犯罪から身を守る携帯電話の使い方	暖房器具の近くの安全な過ごし方	春休みの過ごし方
交通安全指導(警察署)	交通機関の利用とマナー	自転車に関する基本的な交通法規を知る	交差点の危険について	雪の日の交通安全	踏切事故等鉄道での安全
抜き打ち避難訓練(地震・津波)訓練の大切さ	避難訓練(地震・津波)起震車訓練、避難経路の確認、ドア開放	避難訓練(火災)避難経路の確認、火元を回避して避難	抜き打ち避難訓練(地震から火災へ)あわてない、放送をよく聞いて行動・緊急地震速報の利用	避難訓練(火災)暖房器具の安全な使い方、身の回りの安全確認	避難訓練(地震)落下物、ガラス等の危険、出入り口の確保、避難所体験
ように繰り返し指導する					
体育祭現場実習		校外学習		マラソン大会 スキー合宿	
放課後や休日を活用した部活動において安全に配慮した指導を行う					
健康観察	健康観察	健康観察 避難経路確認	健康観察 冬期休業中の安全	健康観察 避難経路確認	健康観察 春期休業中の安全
防災設備点検	暖房器具の設備点検	室内有害物質検査 避難経路点検	照度検査	避難経路点検	
不審者対応訓練					
		安全点検	防災に関する研修		安全点検 校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

※ 「学校安全計画例(小・中・高・特)」及び「災害安全」については、文部科学省資料『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』より引用。

※ 「学校安全計画例」については、長野県教育委員会において、色分けや指導案掲載ページを加筆してあります。

災害安全

区分	ねらい	項目	内 容	
			小 学 校	
火災時の安全	火災のときに起こりやすい危険な状況を理解し、適切な行動ができるようにする	火災のときの危険	低 中 高	火のまわり方と煙の危険 火災の原因と危険 火災が発生したときの心構え
		火災の状況に応じた安全な行動	低 中 高	火のまわり方と煙に対する行動の仕方 火災情報に基づいた判断と安全な行動 安全な行動の要素、燃焼の3要素の理解と可能な対応
		避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方	低 中 高	避難の仕方と方法 避難場所の確認 様々な場面に応じた避難の仕方
地震災害時の安全	地震発生の場合、危険な行動に走りやすいことを理解し、安全な行動ができるようにする 地域によって津波の発生があることも理解し、安全な避難ができるようにする	地震のときに起こる危険を理解し、安全に行動できるようにする 津波や土砂災害などの二次的な災害を理解し、安全に行動できるようにする。	低 中 高	地震・津波のときの危険 地震・津波情報（緊急地震速報）に基づいた判断と安全な行動 地震・津波のときの危険に対する心構え
		避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方	低 中 高	安全な避難の仕方 安全な避難場所の確認 様々な場面に応じた避難の仕方
		津波による危険と避難の仕方	低 中 高	安全な避難場所の確認と避難の仕方 津波による危険 津波情報の収集の仕方 様々な場面に応じた避難の仕方、低学年の子供への促し
火山災害時の安全	火山災害が発生した場合の危険を理解し、安全な行動ができるようにする 地域の活火山を知る	火山活動による危険と避難の仕方 火山噴火の情報の収集	低 中 高	安全な避難場所の確認と避難の仕方 火山活動による危険 火山情報の収集の仕方 様々な場面に応じた避難の仕方
気象災害時の安全	風水害、豪雪は登下校時の道路環境を変えることがあることを理解し、危険を的確に判断し、安全な行動ができるようにする 風水害には二次的な土砂災害も含まれるので、地域の自然環境も理解する。 注意報・警報・特別警報の意味や避難勧告・避難指示等の発令を理解する	風水害等による危険と安全な行動の仕方	低 中 高	風水害のときの安全な登下校の仕方 風水害のときの危険 風水害のときの安全な行動の仕方
		豪雪、雪崩等による危険と安全な行動の仕方	低 中 高	豪雪のときの安全な登下校の仕方 豪雪、雪崩のときの危険 豪雪、雪崩のときの安全な行動の仕方
		落雷による危険と安全な行動の仕方	低 中 高	登下校中の落雷による危険 落雷からの身の守り方 落雷に遭わない行動の仕方
原子力災害時の安全	放射線による事故の危険について理解し、安全な行動ができるようにする 原子力災害が発生した時の情報を収集し、行政の指示に従い、安全な行動がとれるようにする。 地域・社会生活における放射線事故の防止対策	放射線による身体への影響や健康被害	低 中 高	目に見えない危険 身近にある放射線 放射線による身体への影響と健康被害
		放射線による健康被害の防止や避難の仕方	低 中 高	安全な避難の仕方 避難経路や避難場所の確認 正しい情報の入手の仕方
		放射線による健康被害の防止と個人や社会の責任	低 中 高	放射線の存在 放射線の使われ方 放射線の安全対策への理解
		災害発生状況と避難所の意義と相互扶助	低 中 高	避難場所での安全な生活 災害発生時の避難所の役割 避難所の生活と自分の役割
避難所の役割と安全	災害安全に関する意識を高めるために、防災避難訓練等の学校行事の意義を理解し、積極的に参加できるようにする	災害安全に関する学校行事等の意義の理解と積極的な参加	低 中 高	防災避難訓練等への参加の仕方 災害安全に関する学校行事への積極的な参加 災害安全等に関する学校行事の意義と理解
		児童（生徒）会活動による自主的活動への参加	高	災害安全に関する児童会活動の内容
		地域社会における防災に関する活動への参加 家族と避難場所をきめておく	低 中 高	家庭での防災 学校での防災 地域における防災に関する活動の理解と参加

付 録

中 学 校	高 等 学 校
火災の原因と危険 火災に対する心構え	火災の原因と危険 危険物の取扱い 火災に対する心構え
有害な煙に対する行動の仕方 火災の特性 救助器具の使い方と初期消火の仕方	有害な煙に対する行動の仕方 火災の特性 パニックの防止と安全な行動 初期消火の方法
避難経路、避難場所の確認 様々な場面に応じた避難の仕方	避難経路、避難場所の確認 様々な場面に応じた避難と避難誘導の仕方
地震・津波発生メカニズム 地震のときに発生する様々な危険（家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物） 正しい情報の入手 緊急地震速報への対応 パニック防止と安全な行動 地震災害への家庭での備え	地震・津波発生メカニズム 地震のときに発生する様々な危険（家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物） 正しい情報の入手と発信 緊急地震速報への対応 パニック防止の安全な行動 地震災害への家庭での備え
地震に応じた避難経路と避難場所の確認 様々な場面に応じた避難の仕方	地震に応じた避難経路と避難場所の確認 様々な場面に応じた避難と避難誘導の仕方
津波による危険（河川の遡上も含む） 津波警報・特別警報と避難の仕方	津波による危険（河川の遡上も含む） 津波警報・特別警報による避難と避難誘導の仕方
火山活動（火砕流、噴石、降灰、溶岩流、火山ガス）のメカニズムとその危険 火山情報と避難の仕方	火山活動（火砕流、噴石、降灰、溶岩流、火山ガス）のメカニズムとその危険 火山情報による避難と避難誘導の仕方
風水害のときの危険（落下物、電線の切断や倒木、増水による河川の変化、土砂崩れ、河川の崩壊や橋の流出） 風水害情報と避難の仕方、避難勧告・避難指示の理解と行動	風水害のときの危険（家屋への浸水、家屋の倒壊、高潮、河川の氾濫、土石流、崖崩れ） 風水害情報による避難と避難誘導の仕方、避難勧告・避難指示の理解と行動
豪雪時の交通安全 屋根等からの落雪 地吹雪時の危険	豪雪時の交通安全 屋根等からの落雪 地吹雪時の危険
落雷しやすい気象条件・雷注意報への理解 校庭・プール等校舎外での危険 登下校中による危険 落雷に遭わない安全な行動	落雷しやすい気象条件・雷注意報への理解 屋内外での危険 安全な避難と避難誘導の仕方
身近にある放射線 目には見えない危険と身体への影響と健康被害	放射線の身体への影響と健康被害 屋内退避や洗浄
健康被害の内容と防止 放射線事故に応じた避難の仕方 避難経路と避難場所の確認	正しい情報の入手 避難警報と安全な避難と避難誘導の仕方
放射線による原子力災害と安全対策 モニター制度の仕組みとそこかわり	放射線による原子力災害に関わる防災対策
情報の収集の仕方 防災訓練への参加	放射線による健康被害防止対策 防災訓練への積極的参加
災害発生時の避難所の意義と役割 避難所での生活 自主的な組織活動の必要と相互扶助 ボランティア活動への参加	避難所生活と相互扶助 自主組織の活動への積極的参加 ボランティア活動への積極的参加 ライフラインの確保
災害安全に関する学校行事の意義の理解 防災避難訓練等行事への参加	災害安全に関する学校行事の意義の理解 防災避難訓練等行事への参加の仕方
災害安全に関する生徒会活動の内容	災害安全に関する生徒会活動の内容
地域における防災に関する活動への参加（防災訓練、救急法、応急手当、災害時のボランティア活動） 家庭における防災に関する積極的なかわり（点検・整備、防災備品の整理） 家庭における避難場所や連絡方法及び登下校の安全	地域における防災に関する活動への積極的参加（防災訓練、救急法、応急手当、災害時のボランティア活動） 家庭における防災に関する積極的なかわり（点検・整備、防災備品の整理） 家庭における避難場所や連絡方法及び登下校の安全

- 1 題材名 「登下校中に地震になったらどうするの」
 2 目標 (ねらい) 登下校中に地震が起きた時の危険について知り、それらの危険を予測し、回避しなければならないことを理解する。

3 展開 (例)

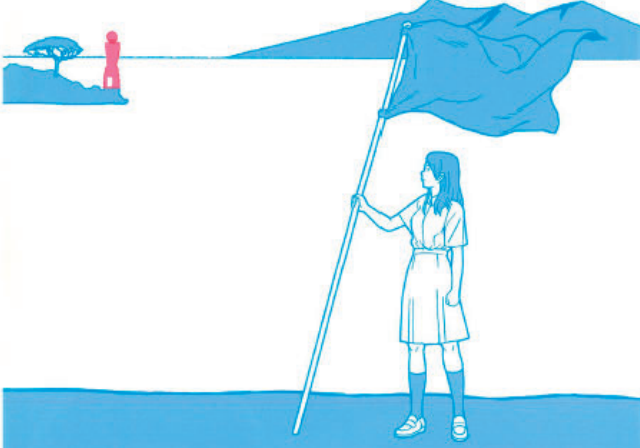
	学習活動・内容	予想される児童の反応	指導・助言
はじめ	1 倒れたブロック塀の資料を見て感想を発表する。	<p>地震が起きたら大変だね。</p> <p>C:倒れたブロック塀に当たって怪我をした子もいたらしいよ。</p> <p>C:本当に学校に行く途中で地震があったら怖いな。</p> <p>C:かくれる机もないし、どうしたらいいんだろう。</p>	<p>T:平成 23 年に松本で起きた地震は、登校時間中に起きたんだよ。</p>  <p>写真提供：消防科学総合センター</p>
なか	2 自由に相談しながらワークシートに記入する。	<p>登下校中に地震があった時にどうしたらいいか考えよう。</p> <p>C:塀が倒れるから塀から離れる。</p> <p>C:建物の窓ガラスが割れるから建物から離れる。</p> <p>C:自動販売機が倒れるかもしれないから自販機から離れる。</p>	<p>T:どこで地震が起きたらどんな危ないことがあって、どんな行動をとったらいいか隣の子と話し合ってみよう。</p>  <p>写真提供：中野市教育委員会</p> <p>写真提供：消防科学総合センター</p> <p>T:話し合ったことをワークシートに記入しましょう。</p>
か	3 話し合った内容について発表し、友達の意見を聞いて自分ならどうするか考える。	<p>話し合ったことを発表するぞ。</p> <p>C:電柱も倒れちゃうんだ。電線に触ると感電するから触らないようにしなくちゃ。</p> <p>C:「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」は、学校の外でも大事なんだね。</p>	<p>T:地震の後、電柱が倒れ、電線が切れる場合があるから、切れた電線には触らないようにしよう。</p> <p>T:「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を探して移動することが大切だよ。</p> <p>重要</p> <p>重要</p>
まとめ	5 自分なりの約束を考える。	<p>どんな約束をしようかな。</p> <p>C:「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」所に避難するよ。</p> <p>C:帰り道にもう一度自分の目で確かめてみよう。</p>	<p>T:地震が起きた場所によってどんな約束があるか考えて、自分なりの約束をワークシートの吹き出しに書き込んでみよう。</p> <p>T:もう一度、自分の通学路の危険な場所を確かめる必要があるね。</p>

小学校 第5学年 総合的な学習の時間

- 1 単元名 「雪がい・風水がいマップを作ろう」
- 2 目標 (ねらい) 雪害や風水害が発生した時に、日頃の状態と大きく変わることを知ったり、自分の通学路や身の回りに潜む様々な危険について考えたりすることを通して、新たなマップ作りへの意欲をもつことができる。
- 3 展開 (例) 写真提供：長野県危機管理室

	学習活動・内容	予想される児童の反応	指導・助言
はじめ	1 雪害の写真と風水害発生時の写真を見る。	<p>写真を見たら思い出したよ。</p> <p>C:何年か前、雪がたくさん降ったことがあったな。</p> <p>C:1年生の時、帰り道ですごい夕立になってカミナリも落ちて大変だったよ。</p>	<p>T:写真を見ながら雪害や風水害の時の様子を思い出してみよう。</p>  <p style="text-align: right;">写真提供：神戸市</p>
なか	2 どこにどんな危険があるか考える。	<p>雪害や風水害が発生したら通学路はどうなるのかな？どこにどんな危険があるのか予想して、地図に表してみよう。</p> <p>雪害時</p> <p>C:民家の軒下は落雪があると危険だね。</p> <p>C:崖では雪崩が心配だね。</p> <p>風水害時</p> <p>C:橋に近づくと川に落ちちゃうかもしれない。橋が壊れることもある。</p> <p>C:坂道や地下道・低い土地では、水がたまって深くなっているところがあるから危険。</p> <p>C:マンホールは、ふたが外れても分からないから、落ちることがあるかもしれない。</p>	<p>T:どんな危険が考えられるかを話し合ってみよう。</p>  <p>T:大雪の際は、道路見通しも悪くなるから気を付けないといけないね。</p> <p style="text-align: right;">重要</p>   <p>T:川が増水した様子は、絶対に見に行かないことが大事だね。</p> <p style="text-align: right;">重要</p>
まとめ	4 次時の計画を立てる。	<p>実際に見に行きたいな。</p> <p>C:実際に自分の通学路をもう一度見に行きたいな。</p>	<p>T:じゃあ次の時間は、実際に自分たちの目で確かめてみよう。</p>

まもるいのち ひろめるぼうさい



青少年赤十字 防災教育プログラム

授業で使える
防災教材

小学生用(1-3年) / 小学生用(4-6年) / 中学生用・高校生用



地震災害

社会 防災 防災
総合学習 特別活動

1. プログラムの趣旨

児童に、日常生活の様々な場面から地震から身を守る方法を学ぶことで、地震の時に危険なものに気づき、常にその対処法を考え、「自分のいのちは自分で守る」行動をとることができるようにする。

2. ねらい

地震が発生した時にどんなことが起きるかをイメージさせる。その上で、普段から地震の時に危険なものを見つけて、様々な場面から身を守る方法を学び、自分のいのちは自分で守るため自ら危険を回避する行動ができるようになる。

3. 展開 (45分)

時間	学習内容	指導のねらい・留意点や配慮事項
15分	<p>【A-0】「災害」とは何が考えられるか。</p> <p>【A-1】地震が起きたらどうするべきか。</p>	<p>【A-0】「災害」とは何が考えられるか。DVDのA-0、A-1を見せる。</p> <p>▼まず自分のグループで考えている場面を話し、自分の想像のりかえりを行う。</p>
15分	<p>【A-2】地震が起きたらどうするべきか。</p> <p>【A-3】地震が起きたらどうするべきか。</p>	<p>【A-2】DVDのA-2、A-3を見せる。</p> <p>【A-3】地震が起きたらどうするべきか。</p> <p>▼地震の時に何をすべきか。DVDのA-3を見せる。</p> <p>【A-3】地震が起きたらどうするべきか。</p> <p>▼地震の時に何をすべきか。DVDのA-3を見せる。</p>
15分	<p>【ワークシート1】地震が起きたらどうするべきか。</p>	<p>【ワークシート1】地震が起きたらどうするべきか。</p> <p>▼地震が起きたらどうするべきか。DVDのA-3を見せる。</p>
15分	<p>【A-4】地震が起きたらどうするべきか。</p>	<p>【A-4】地震が起きたらどうするべきか。</p> <p>▼地震が起きたらどうするべきか。DVDのA-4を見せる。</p>

ワークシート1「地震から身を守る」

ねん くみ ばん ねまえ

学校で地震がおきたとき、あぶないものは？

学校にいたときに地震がおきました。学校には、ぐらぐらゆれるとあぶないものがたくさんあります。

下のイラストの中で、あぶないものに○をつけましょう。



雪害

社会 防災 防災
総合学習 特別活動

1. プログラムの趣旨

日本の半分以上の地域に発生する災害、雪害。ここでは雪害から身を守るためにどのようにすればよいかを学ぶ。

2. ねらい

雪は寒く、遊ぶことができる反面、たくさん降ると生活に困ること、また、いのちの危険に関わる事故につながる可能性があることを学ぶ。

3. 展開 (15分)

時間	学習内容	指導のねらい・留意点や配慮事項
15分	<p>【A-12】大雪と雪害について学ぶ。</p>	<p>【A-12】DVDのA-12を見せる。</p> <p>【A-12】大雪と雪害について学ぶ。</p>
15分	<p>【ワークシート2】大雪から身を守るために必要な行動について考える。</p>	<p>【ワークシート2】大雪から身を守るために必要な行動について考える。</p> <p>▼大雪から身を守るためには、どのような行動をすればよいか。ワークシートに記入し、発表する。</p>
15分	<p>【A-12】大雪と雪害について学ぶ。</p>	<p>【A-12】大雪と雪害について学ぶ。</p> <p>▼大雪が降ったら、何を想定して行動することを考える。</p>

ワークシート回答例

ワークシート2「大雪から身を守る」



指導のポイント

雪の多く降る地域では、過去の事例を参考に危険のある場所を挙げ、最悪の際にはどの道を通ったらよいか、取置の時にどこに避難するのがよいかなど、具体的な例を挙げながら授業を展開していくのがよいでしょう。

雪が降ったに備わらない地域では、雪への対応の知識が乏しい可能性がありますが、DVDで学んだ基本的な事項をあらためて確認することを目標に、授業を展開しましょう。

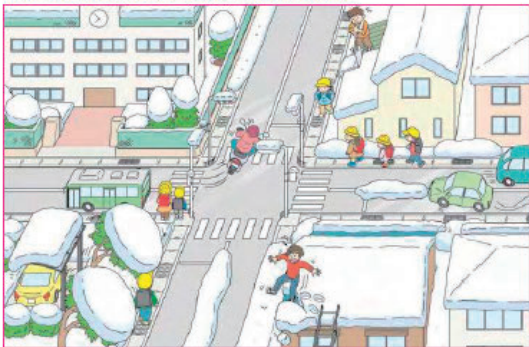
ワークシート6「大雪から身を守る」

ねん くみ ばん なまえ

雪がたくさんふったとき、あぶないところは？

雪がふったときに気をつけること、雪でおこるあぶないことを考えてみましょう。

下のイラストの中で、あぶないところに○をつけましょう。



風水害

対象学年：小学生用（4～6年） 45分

A7 台風・豪雨を知らなくとも、風水害から身を守る A1 台風から身を守る A1 台風から身を守る

社会 理科 体育
総合学習 防災教育

このプログラムの使い方

風水害のプログラム（p31～36）は、すべてつなげて1回の授業として行うか、もしくは「台風・豪雨」「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のいずれかを組み合わせた授業として行うことができます。p34のワークシート4は、「台風・豪雨」の授業の時に使用してください。p35のワークシート5は「積乱雲」「雷」「局地的大雨」「竜巻」のどの授業で使用してもかまいません。

台風・豪雨（15分）

A7 台風・豪雨を知らなくとも、風水害から身を守る A1 台風から身を守る

1. プログラムの趣旨

毎年、夏から秋にかけて、台風が日本を通り過ぎることで、たくさんの雨が降り、強い風が吹き、各地に大きな被害をもたらす。ここでは、台風がもたらす様々な災害（洪水・高潮・土砂災害）について学び、台風が日本に近づいてくることを天気予報によって前もって知り、最新の情報を確認することが重要であることを学習する。

2. ねらい

- ① 台風のしくみを知ること、台風がもたらす様々な災害を学習する。台風から身を守る方法を学び、台風接近時、自分で危険を回避する行動ができるようになる。
- ② 近づいてくる台風の規模（大きさ、位置など）はあらかじめ気象情報で確認できるので、最新の気象情報を確認して災害に備えるようになる。
- ③ 災害時に必要な知識を適切に用いることで、自分の安全だけでなく、家族や友だち、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようになる。

3. 展開（15分）

時間	学習内容	資料の活用・指導上の留意点
0:00	DVD「台風・豪雨について学ぶ」	● DVDのA7を視聴する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。
0:05	ワークシート4「天気予報」	● 気象情報を読み取り、台風の接近を予測する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。
0:10	ワークシート4「天気予報」	● 気象情報を読み取り、台風の接近を予測する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。
0:15	ワークシート4「天気予報」	● 気象情報を読み取り、台風の接近を予測する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。
0:20	ワークシート4「天気予報」	● 気象情報を読み取り、台風の接近を予測する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。
0:25	ワークシート4「天気予報」	● 気象情報を読み取り、台風の接近を予測する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。
0:30	ワークシート4「天気予報」	● 気象情報を読み取り、台風の接近を予測する。 ● 「来たてきよう」の動画が流れる。DVDを一時停止し、気象情報を読み取る。

火山災害

対象学年：小学生用（4～6年） 10分

A13 火山災害を知らなくとも、火山から身を守る A1 火山から身を守る

社会 理科 体育
総合学習 防災教育

1. プログラムの趣旨

世界有数の火山大国である日本には多数の活火山があり、その活動によって大きな被害に見舞われることがある。火山の現状と火山災害から身を守る方法を学ぶ。

2. ねらい

- ① 様々な火山災害の種類があり、気象庁が活火山を監視していること、危険性が高い47の火山は24時間体制で監視していることを知る。
- ② 火山災害から身を守る方法を学ぶ。火山活動が発見になると噴火警報が出されるので、テレビやラジオの最新の情報を確認することの大切さを知り、活用できるようにする。

3. 展開（10分）

時間	学習内容	資料の活用・指導上の留意点
0:00	DVD「火山について学ぶ」	● DVDのA13を視聴する。 ● 「火山のしくみ」の動画が流れる。DVDを一時停止し、火山のしくみを確認する。
0:05	ワークシート5「火山災害から身を守る」	● 火山災害の種類や、気象庁が活火山を監視していること、危険性が高い47の火山は24時間体制で監視していることを知る。
0:10	ワークシート5「火山災害から身を守る」	● 火山災害から身を守る方法を学ぶ。火山活動が発見されると噴火警報が出されるので、テレビやラジオの最新の情報を確認することの大切さを知り、活用できるようにする。



地震災害

対象学年：中学生用・高校生用 50分

A0 地震を知らなくとも、地震から身を守る A1 地震から身を守る A2 地震から身を守る A3 地震から身を守る A4 地震から身を守る

中学・理科 中学・体育 中学・総合
高校・理科 高校・体育 高校・総合 高校・防災

1. プログラムの趣旨

地震についての理解を深めるため、DVDやワークシートの教材を活用して、日常生活の様々な場面でも地震から身を守る方法を学ぶことで、地震の際に危険なものに気づき、自分の安全を確保する方法を知る。また、学んだものを広めることで、友人、家族、地域社会の人々の安全の確保に貢献する。

2. ねらい

- ① 地震が起こるメカニズムを学ぶとともに、日本は地震が多い国であることを理解する。
- ② 地震から身を守る方法を知り、地震発生時、危険を回避する行動ができるようになる。
- ③ 緊急地震速報のしくみを知り、揺れが始まるまでの間に何ができるかを考え、行動できるようにする。
- ④ 中学生は学習したことをもとに、地震災害の際に自分の身を守るだけでなく、他の人のためにできることを積極的に行うようになる。
- ⑤ 高校生は学んだことを活用することで、自分の安全の確保だけでなく、地震発生の際に友人、家族、地域社会の人々に役立てる貢献する取り組みができるようになる。

3. 展開（50分）

時間	学習内容	資料の活用・指導上の留意点
0:00	DVD「地震のしくみ」	● DVDのA0を視聴する。 ● 「地震のしくみ」の動画が流れる。DVDを一時停止し、地震のしくみを確認する。
0:05	ワークシート6「地震から身を守る」	● 地震のしくみを知り、日本は地震が多い国であることを理解する。
0:10	ワークシート6「地震から身を守る」	● 地震から身を守る方法を知り、地震発生時、危険を回避する行動ができるようになる。
0:15	ワークシート6「地震から身を守る」	● 緊急地震速報のしくみを知り、揺れが始まるまでの間に何ができるかを考え、行動できるようにする。
0:20	ワークシート6「地震から身を守る」	● 中学生は学習したことをもとに、地震災害の際に自分の身を守るだけでなく、他の人のためにできることを積極的に行うようになる。
0:25	ワークシート6「地震から身を守る」	● 高校生は学んだことを活用することで、自分の安全の確保だけでなく、地震発生の際に友人、家族、地域社会の人々に役立てる貢献する取り組みができるようになる。

ワークシート1「地震から身を守る」

年 組 番 名前

地震が起きた時、考えられる危険は？

地震は、いつどこで起きるか分かりません。どんなところで地震に遭っても、危険を予測し、回避できるように、それぞれの場所で考えられる危険を挙げましょう。

次の場所で地震が起きた時に予測される危険と、それを回避する方法を書きましょう。

● 学校内 (講義、トイレ、体育館、音楽室、理科室など)

予測される危険

回避方法



● 家の中

予測される危険

回避方法



● 通学路 (徒歩)

予測される危険

回避方法

● 電車やバスの中

予測される危険

回避方法

ワークシート2「緊急地震速報を活用して身を守る」

年 組 番 名前

緊急地震速報が鳴ったら？

緊急地震速報は地震対策のひとつです。どのようなしくみになっているのでしょうか。

緊急地震速報を活用して、自分の身を守るだけでなく、周囲の人のいのちを守ることができる行動について、考えましょう。

①緊急地震速報は、どんな時に発せられるのでしょうか。

②緊急地震速報は、何によって知ることができるのでしょうか。

③緊急地震速報が鳴ったら、何をしたらよいでしょうか。

対象学年：中学生・高校生

50分



DVD 視聴時間 約15分
A0 災害発生時の対応方法、A1 避難場所、A2 避難経路、A3 避難時の行動、A4 避難時の服装、A5 避難時の持ち物、A6 避難時の連絡方法、A7 避難時の注意事項、A8 避難時の安全確保

災害に備える

公民・社会、国語、理科、数学、英語、音楽、体育、美術、保健、家庭科、職業科、特別支援科

1. プログラムの趣旨

災害には日頃の備えが重要である。日頃の備えを多面的に学ぶことで、災害から自分のいのちは自分で守ることを意識させる。学んだ知識を家庭や地域社会で活かすことができる。

2. ねらい

- ①災害に対する日頃の備えについて学ぶ。
- ②正しい情報入手することが生き抜くためには役立つことを学ぶ。
- ③大災害の際は、地域の助け合いが重要なことから、地域の避難訓練などに積極的に参加することや、コミュニケーション能力を高めておくことが重要であることを知る。

3. 展開 (50分)

時間	学習内容	説明や留意点
10分	導入 ●「災害」のことがこの意味を考える。	●「災害」はどんなものがあってもいい、DVDのA0、A1を参照。 ▼またこのトップページにある検索機能も、利用のりかえりを行う。
10分	展開 ●災害への備えについて学び、災害に対しては、日頃の備えが大切であることを学習する。	●DVDのA14、A15、A16、A17、A18を参照し、(表)の内容を確認させる。 ●表に準備するチェックリストを作成し、表の項目が少い順に学習する。 ●表の項目に該当するものは、事前にチェックしておく。 ●日頃からの備えが大切であることを、この学習を通して伝える。 ●表の項目を確認させる。
10分	まとめ ●災害への備えの重要性を理解する。	▼このワークシートは、この学習を通して災害への備えは、事前に準備し、表に記入してからの学習を行うことが重要である。 ▼その際、表のワークシートに記入するものは、実際に災害への備えを考えた学習を行うようにする。
10分	振り返り ●防災への備えを、家庭から災害を想定した備えを行うことを確認する。	▼表の項目を確認させる。 ▼このワークシートの学習が、災害への備えを促すだけでなく、学んだことを家庭や地域の防災活動に活かすことにもつながる。

ワークシート7「災害に備える」

年 組 番 名前

災害に備えて、どんな準備をしていますか？

いつ来るか分からない災害に備えて、家族で話し合い、一人ひとりの避難バッグを用意するなど、災害への準備をしてみましょう。

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に備えましょう。

- | | | |
|---|---|---|
| <input type="checkbox"/> 現金 (お財布をふくむ) ※公衆電話用 10円玉、100円玉
<input type="checkbox"/> 印鑑
<input type="checkbox"/> 以下の2つは、避難を待たなければならぬ場合に備えて、コピーを入れておく。
<input type="checkbox"/> 健康保険証
<input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの (学生証、パスポートなど)
<input type="checkbox"/> 予備の眼鏡
<input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電をふくむ)
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ (予備電池をふくむ)
<input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ
<input type="checkbox"/> 筆記用具 | <input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 飲料水
<input type="checkbox"/> ヘルメット
<input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池をふくむ)
<input type="checkbox"/> 笛やブザー (音を出して避難所を知らせるもの)
<input type="checkbox"/> 万病ナイフ
<input type="checkbox"/> 寒い時にかいり
<input type="checkbox"/> マスク
<input type="checkbox"/> ビニール袋
<input type="checkbox"/> アルミ製保護シート
<input type="checkbox"/> 毛布
<input type="checkbox"/> スリッパ
<input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> マッチライター
<input type="checkbox"/> 簡易トイレ
<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 防寒服・防寒靴
<input type="checkbox"/> タオル
<input type="checkbox"/> トイレレットペーパー
<input type="checkbox"/> 寝巻き (下着をふくむ)
<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/> 生理用品
<input type="checkbox"/> 飲みがきセット |
|---|---|---|

②上のリストのほかに、自分や家族が必要だと思うものを書きましょう。

③家族と相談して、集合場所や約束ごとなど、決めておくべきことを、書きましょう。